

新学習指導要領における歴史学習 —解釈型歴史学習のすすめ—

愛知教育大学教授 土屋武志

新学習指導要領の最大の改善は 評価の4観点の組み替え

今回の学習指導要領による最大の変化は、評価の4観点の改善である。「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」（中教審教育課程部会2010年3月24日）により、従来の観点が以下のように変わるようになった。

○関心・意欲・態度	→	○関心・意欲・態度
○思考・判断		○思考・判断・表現
○技能・表現		○技能
○知識・理解		○知識・理解

とくに注目すべき点は、「表現」が「思考・判断」の観点に移動した点である。つまり、思考・判断能力を評価するためには表現活動が絶対に必要ということである。ただ座っているだけでは、生徒の思考が深まっているか、活発かどうかわからない。何らかの表現活動をさせることで、その状況を把握して評価する。そのような考えにもとづいた改善である。

2 歴史学習における思考活動

歴史学習において、思考・判断・表現する学習活動には、どのような活動があるだろうか。教科書を用いる場合、次の3つのタイプに分けられる。この3種類の授業を開発する

ことが、現在の課題といえる。

「通説批判型」

最新の歴史研究にもとづいて、従来の歴史教育の通説が実は違っていることを学ぶ学習活動となる。たとえば、江戸時代の「鎖国」政策は海外との交流を遮断したという通説に対して、むしろ多くの交流があったと従来の通説を逆転させることなどである。

「新視点提供型」

通説が重視してこなかった新しい視点から、従来と異なる歴史たとえば社会史によるテーマを追究する学習活動となる。たとえば、「人々は、情報をどのように伝えていったか？」などの時代横断的なテーマ学習である。「新視点提供型」には、沖縄や北海道の歴史をはじめ地域から描く歴史も含まれる。

「解釈型（仮説提案型）」

歴史上のある疑問について、生徒たちが複数の仮説を提案する学習活動となる。たとえば、「江戸時代を最も変化させた人物は誰か？（出来事は何か?）」などの問いに対して、いくつかの可能性をあげ、その根拠と妥当性を議論し検証する学習などである。つまり、「歴史について解釈し論述する」学習活動である。

帝国書院の中学校向けの社会科教科書は、これらの活動に配慮された教科書であり、とくに、「解釈型」の活動に対応した特色を持っている。

3 帝国書院歴史教科書による「解釈型」学習活動

(1) 情報を組み立てる活動

平成24年度用『社会科 中学生の歴史』（以下、新教科書）のp.68～69「歴史に挑戦 韓国新安沖から沈没船が見つかる！」は、生徒たちが複数の情報を組み合わせて、推理、対話する活動のためのページである。この教材は従来からこの教科書の特徴的な教材である。

この教材における学習活動の中には、情報を用いて、その船が沈んだ年月を類推する活動がある。生徒の中には、当時の船の特徴から、「帆船」は季節風を利用するので、四季のある朝鮮半島周辺では毎年同じ頃、同じルートを辿ったのではないかと考える生徒がいる。これは鋭い視点といえる。蒸気船のように風を必要としない動力が発明される以前の

時代は、自然の力（季節風）を利用して航海していたということ、そのために交易の時期が限定されたこと。このような理解は、現代の特徴を歴史的に捉える視座として重要である。社会科歴史学習は、単なる情報の活用技能だけではなく、現代を歴史的に特徴づけるための学習として位置づけられる。さらに、現代日本が歴史的にアジア諸地域との交流関係の中で形成されたことを学ぶ教材でもある。このように多様な情報を選択して組み合わせ、説として組み立てる学習活動を示している。これは、新しいタイプのテスト問題、つまりPISA型の学習問題の好例でもある。新教科書では、生徒たちが情報を組み立てて表現する活動が増やされている。p.222～223の「歴史に挑戦 政府と軍を批判した議員、除名される！」は、日中戦争中の国会で軍部批判演説をした斎藤隆夫が議員除名された出来事を推

地理

歴史

公民

地図

社会科

歴史に挑戦 政府と軍を批判した議員、除名される！



1937年、日中戦争が始まり、長い戦争が始まりました。衆議院議員であった斎藤隆夫は、1940年、衆議院議会で「軍部」の名のもとに戦争を長引かせる政府と軍を批判しました。演説の途中、議室内は拍手がわきました。

しかし演説から1か月後、議会は「斎藤氏は戦争の目的をばうとくしている」という理由で、賛成296、棄権・白票144、反対7で、彼を国会議員から除名しました。

ただいづらに軍部の美名にかくれ、国民の犠牲を忘れ、一黨百年の久計を遂げるようなことがありましたらば、これは我々の政治家は死してもその罪をほろぼすことはできない。

※1 衆議院本会議で演説をする斎藤隆夫(1940年2月2日)

※2 除名後、名札を取りはずされる様子(同年3月7日)

情報① 陸軍のパンフレット



満州事変を起こした軍部は、軍事産業などで不景気を解決したために、国民の支持を集めていました(-p.207)。

同じころ、軍部は国民に対してパンフレットをくばり、「軍部は防衛と政治と距離をおいて、賢い人々をふくめた全国民を積極的に救済する」とアピールしました。

※陸軍が作成したパンフレット

情報② 治安維持法による逮捕



治安維持法は社会運動全般を取りしめる法律でしたが、その定義が明確ではありませんでした。そのため、政府に反対する人々は、さまざまな理由をつけられて逮捕されました。

挑戦状

この時期、人々は戦争について批判することができなくなっていただけでなく、積極的に支持するようになっていた。

今後、戦争を起こさせないようにするために、私たちはどのようなことに最も気をつけるべきなのか、情報を参考に自分の意見を述べよう。

情報③ 子どもへの教育

子ども用の絵本や雑誌は、戦争が進むにつれて、戦争色が強いものになっていました。当時の子どもたちはそうしたものに囲まれて育ちました。

とくに「植太朗」は、魂を遺治するという内容が、理想的な日本男児として取りあげられ、さまざまな形で紹介されました。



→1冊「植太朗 海の神鳥」太平洋戦争中につくられた児童アニメーションで、植太朗が動物たちとともにアメリカ兵と戦う内容でした。

（東京北谷書局 1944年 松竹書院刊）

情報④ 新聞などが伝えた戦争

新聞社が戦地で撮影した写真は軍によってチェックされ（検閲）、許可が出たものだけが新聞に使えました。現地の新報記者や兵隊の手紙も検閲を受けました。

※許可がおりた写真 戦車の能力がわかる部分を残すことで許可がおりました。

※検閲された写真



右の新聞は1942年のミッドウェー海戦について書かれたもので、一つは日本の新聞、一つはアメリカの新聞です。

国民が知り得る戦争情報のほとんどは大本営発表とよばれる政府の発表だけで、戦争を続けるうえでさまざまな情報が必要だと知られることはありませんでした。

※日本新聞報道と実際の状況の違い 日本の報道にはのちに修正された発表もふくめています。

日本人観	日本	アメリカ
航空母艦	●	●
潜水艦	●	●
戦艦	●	●
潜水艦	●	●
航空母艦	●	●
潜水艦	●	●
戦艦	●	●
潜水艦	●	●

「The New York Times」

※日本の新聞 「勝利」とは書かないまでも、「いよいよ勝利」という形で紹介されています。（朝日新聞 1942年6月11日）

※アメリカの新聞 「ミッドウェー海戦」において、日本は深刻な被害をこうむったと紹介されています。

理する活動である。ここでは、なぜそうなったのかというその時代解釈だけでなく、民主社会でこれから何に気をつけるべきかを考える公民教育の導入ともなっている。

(2) 情報に気づく活動

新教科書のp.228～229「タイムトラベル⑩ 1960年代前半のようす」のページは、教科書を使う生徒が、過去にタイムトラベルしたという設定でつくられている。たとえば以下の4つが、このページで想定されている学習活動である。

① 生徒の関心や意欲を高める活動＝「なぜ」を探し出したり、気づきや発見を引き出し、それを整理させることによって「関心・意欲」を高める活動。

② 思考・判断・表現の力を高める活動＝過去と現代を比較させたり、ランキングさせ、それらを表現させることによって思考力を高

める活動。

③ 資料活用技能を高める活動＝資料を観察し、必要な情報を読み取らせたり、分類・整理させる活動。

④ 知識・理解を確実にする活動＝歴史用語を正確に用いて現代とは違った過去の社会を理解する活動。

この中でも、①と③の活動は、教科書に埋め込まれた情報に気づき・引き出す活動である。教師が次のような発問を行うことが想定される。

ア) なぜを発見する活動

- ・この絵の中でいちばん疑問を持つ場面はどこですか？
- ・この絵の中でもっともなぞの人物は誰ですか？
- ・この絵の中の世界ではどんな音や声がかきこえるでしょうか？



タイムトラベル⑩

1960年代前半のようす

さあ、とうとう現代へやってきました。太平洋戦争が終わった後の時代を戦後ともいいます。ここは新幹線の開通が予定されている地方のようすです。戦争が終わってからの風景がかなり厚んできています。

私が担当するのは、p.227からp.250までです。近代や私たちの生活と同じところ。違うところを詳しくみていきましょう。



(上の絵の中から探してみましょう)

次の年ー名の人たちは、何をしているのでしょうか。



(前の時代と比較してみましょう)

前の時代と比べて、変化があったかどうか、みてみましょう。



(想像図をえがくための資料を確認しましょう)

この想像図は、同じ時代の写真や建物、証言などを参考にしています。タイムトラベルの資料は、教科書の他のページで取られています。

- p.236 東海道新幹線の開通
- p.242 東京への乗出証
- p.243 大都市郊外につくられた団地 など



ここは約50年前のようすです。かなり現在に近い風景になっていますが、違う点もたくさん見つけられます。

- イ) なぞを深める活動
- ・あなたが見つけた疑問の答えは何だと思えますか？ 予想してみよう。
 - ・どんな音や声がきこえるかノートに書き出してみよう。
- ウ) 特徴を発見する活動
- ・この絵の中で前に学習した時代と似たところはどこですか？
 - ・この絵の中に教科書〇〇ページにある資料と似た人物やモノをさがそう。
 - ・この絵の場面にタイムトラベルしたらどんな臭いや音がするでしょう？ 絵の中からその理由をさがそう。
- エ) 分類する活動
- ・この絵の中の場面を分類してみよう。
 - ・この絵の中で仕事の違う人たちが描かれているとすればいくつの仕事がありますか？
 - ・この絵の中から次のことを考えるヒントをさがそう（重複してもよいし、いくつでもよい）。たとえばこの時代の食料事情・エネルギー・医療や衛生状況・運搬や流通・商業・しきたり・国際関係・学問や教育・娯楽・信仰や宗教・描かれている季節などから複数選ぶ。

このような発問から、生徒が教科書の時代に引き込まれる（タイムトラベルする）設定で新教科書がつけられている。

もちろん、「情報を組み立てる活動」も「情報に気づく活動」も生徒1人で行うことを想定しているわけではない。どちらも、生徒同士が、また生徒と教師が「対話」することが前提となっている。「対話」は、コミュニケーション活動の基本である。生徒が、ペアやグループで「対話」する中で、自分自身の解釈を変化させたり深化させたりしていく。「解

釈」とは1人で行う活動ではなく、他者にわかってもらい、評価され、共有されることによって市民社会での「解釈」=通説となる。そのために他者との「対話」など表現する場面を学習の中で繰り返させる必要がある。帝国書院版の新教科書は、それができるようにつけられている。

4 自分のこととして歴史を考える

歴史を単なる過去のこととして知識として覚えるのではなく、これからの自分の未来を考える材料とすることこそ、社会科としての歴史学習である。新学習指導要領もそのようにつけられている。新教科書のp.219には、広島で亡くなった森脇瑤子の日記が情報として掲載されている。13歳という、今の中学生と同じ年齢の少女の日記は、未来を創り出す今の中学生への過去からのメッセージである。

この情報を用いてどのように「解釈」するか？ 単に「その時代に生まれなくてよかった」というような人ごとの「解釈」でなく、その後の歴史・今の時代との関わりの中で、自分の未来をつくるためにこの情報を活用させたい。帝国書院の新教科書は、情報相互に参照ページを丁寧につけており、生徒が時代を追って情報をたどることができるようにつけられている。未来のための歴史学習として、情報をどのように読み解くか（解釈するか）。このことは、新学習指導要領でもっとも重視されていることの一つである。その手立てとしての「解釈型歴史学習」であり、現行の帝国書院の教科書も、この新しい手立てを活かすことができるものとなっているが、新教科書では、さらにこの視点からいっそうの改良が加えられている。